

2019 年 度 CD 級 ス テ ッ プ ア ッ プ 講 習 会 参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第41回 大阪府北地区公立高校バスケットボール大会				
●日程	令和元年11月4日 (月)				
●会場	大阪府立刀根山高等学校				
●講師	大阪府審判委員会 インストラクター部 細見 竜太 様 北村 仁 様 近江 伸郎 様				
●スケジュール	令和元年11月4日 (月)				
	8:30 開講式				
	9:30 実技講習開始				
	14:00 担当ゲーム 17:30 閉講式				
●担当試合	令和元年11月4日 (月) 14:00 ~				
	対戦カード	茨木高校 VS 茨木工科高校			
	主審	CC	奥辻 成世 氏(高体連)	U	朝久
	講師／主任	近江 伸郎 様			
	講評	メカニクを理解し、十分に判定を行える位置にいる。 判定の基準がふれている。特に、オフェンスのRSBQへの影響がないマージナルなものをイリーガルとしてファウルで判定しているものが多くあった。また吹き逃しているファウルが多くあった。そのため、選手がプレーする時間よりも、審判によって試合が止まる時間が多かった。マージナルorイリーガルorノーファウルの判定を下していかなければならない。 ディフェンスのリーガルガーディングポジションがどこまで確保できているか、オフェンスの0ステップの開始はどこかなど、はっきりと確認をする必要がある。 ファウルの判定はディフェンスの位置取りや手の使い方を見る、いわゆるレフリーディフェンスの姿勢を強く持つておく必要がある。 ゴール下のスクリーンアウトに対しての判定を下せていない。リードが少し下がり、余裕をもって判定できる位置を取る必要がある。 ゲームの途中で判定や基準について、話をしていればもっと整理できる。 ゲームの最後まで同じ感覚で吹き切ることが必要。ゲーム開始時と終了時での基準が変わってはいけない。 プライマリーの意識を強く持つて判定できた部分もあるので、その意識は大切にする。			
	自己の感想	1ゲームを通して、同じ判定の基準で吹き切ることができなかった。 理由の1つ目はゲームの初めの部分で基準を作れなかったことがあげられる。 RSBQへの判定ではなく、接触が起こった事実のみで判定を行っており、両チームのファウルカウントが多くなってしまっていた。その結果として、クレー間でファウルの数が偏ってしまった。 2つ目は、ファウルの責任の所在を見極めていられないことである。ディフェンスがリーガルガーディングポジションを占めることができていないかを確認しなければならない。さらにレフリーディフェンスの見方が必要であることを感じた。 ゲーム内でビッグインパクトについて3回起こっていたものすべてに笛を入れることができた点については良かったように思う。 1ゲームを通して、判定の基準を変えることなく、両チームや観客にわかりやすい判定をしていくことが課題であると強く感じた。 最後に、今回の研修会に携わっていただきました方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。			

第 41 回 大 阪 府 北 地 区 公 立 高 等 学 校 バ ス ケ ッ ト ボ ー ル 大 会
参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第41回 大阪府北地区公立高等学校バスケットボール大会		
●日程	令和1年10月22日 (火) ~ 令和1年11月4日 (月)		
●会場	大阪府立刀根山高等学校体育館		
●講師	細見 様 近江 様 北村 様 首藤 様		
●スケジュール	令和1年11月4日 (月)		
	8:30 集合・開講式 8:35 講師講話 9:30 実技講習開始 18:00 実技講習修了 18:05 閉講式・解散		
●担当試合	令和1年11月4日 (月) 9:30 ~		
	対戦カード	大阪府立三島高等学校 VS 大阪府立茨木高等学校	
	主審	主審 池田 祐貴	副審 藤井 謙次
	講師／主任	近江 様	
	講評	トレイルのとき、クロスステップの使用が少ない。ストロングサイドへのドリブルなどに対してもっと多用するとよい。また、中に入り込む位置へのステップをすればもっとよい。 RSBQの崩れていない接触に対してのファウルコールが気になった。接触の現象だけ見るのではなく、そこまでのプレイヤーの動きを捉え、影響を見て判定すること。オフェンスプレイヤーがドライブした際、ディフェンスのプレイヤーのファウルがいつ起こったのか正しく判定すること。その後の処置として、フリースローかスローインを適切に判断すること。 8秒オーバータイムの判定は良かったが、吹く前にコートから目を切ってタイマーを見ないこと。 オフェンスチャージングの判定は良かったが、その判定に至った説明をきちんと出来るようにしておくこと。	
	自己の感想	自分がトレイルのとき、ボールレベルまで位置を下げることを意識して臨んだが、前半はリバウンドファウルが見えなかった。3ポイントの判定をし、シューターに対するファウルが起こらないかを見て、得点となったのかを確認する状況でステイしたままであった。ハーフタイム中のカンファレンスで確認し、後半はステイしたままでなく、そこからレベルを下げて、横からリバウンドファウルが無いかを見に行くことが出来たことがよかった。 講義では、EOQ・EOGの話があったので、特にタイマー管理には注意した。自分がリードのときは、ラストワンプレイの合図を相手審判に伝えるようにしたのがよかった。	

第41回大阪府北地区公立高等学校バスケットボール大会
参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第41回大阪府北地区公立高等学校バスケットボール大会		
●日程	令和1年11月4日 (月) ~ 令和1年11月4日 (月)		
●会場	大阪府立刀根山高校体育館		
●講師	細見 竜太 氏 北村 仁 氏		
●スケジュール	令和1年11月4日 (月) 8:30 開講式・ 8:40 講師講話 11:00 実技開始 12:30 振り返り 18:00 終了		
●担当試合	令和1年11月4日 (月) 11:00 ~		
	対戦カード	府立刀根山高校 VS 府立大冠高校	
	主審	主審 下村 氏 副審 石山	
	講師／主任	北村 仁 氏	
	講評	・その試合1つ目の判定がクロスコールとなってしまったことが良くなかった。1つ目の判定には特にプライマリーを意識する。 ・Newリードへの入りが遅い。 ・ボールが4番へ落ちたときのチェックアウトは出来ていた。 ・レポートのときにもう少し大きな声を出す。 ・走り方を改善する。だらだらしているように見えてしまう。	
	自己の感想	・今回の研修は12月に行われるB級審査会に向けてのステップアップ講習であった。自分の足りない点、改善点などを的確に指摘していただき大変有意義な時間となった。 走り方1つをとってもまだ改善すべきところは沢山ある。審査会に向けて更なる研鑽を積まなければならないと痛感した。 今回講師を務めていただいた細見氏・北村氏には感謝します。また、貴重な機会を提供してくださった大阪府バスケットボール協会にも感謝します。 ありがとうございました。	

第41回大阪府北地区公立高等学校バスケットボール大会
参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第41回大阪府北地区公立高等学校バスケットボール大会		
●日程	令和元年11月4日	(月) ~	令和元年11月4日 (月)
●会場	大阪府立刀根山高校		
●講師	細見 竜太 様 大阪府審判員会 インストラクター部の皆様		
●スケジュール	令和元年11月4日 (月)		
	8:30 集合・開講式 9:30 実技開始 17:30 解散		
●担当試合	令和元年11月4日 (月) 12:30 ~		
	対戦カード	豊中 VS 三島	
	主審	主審 入江	副審 高澤
	講師／主任	細見 竜太様	
	講評	一試合トータルでは大きなトラブルや問題なくまとめられていた。クレー二人とも、プレゼンテーションを意識しているのがよくわかる。細かいことを指摘すると、動きに不自然なところがあるので、それを修正するように。 トレイルの位置取りが高い。トレイルの基本の位置取りはボールレベルもしくは、2 by2が良い。高い位置から見ていると、6番エリアのリバウンド争いなどを見落とすことになる。2Pか3Pかを確認し、その後リバウンド争いの判定に参加するために、ポジションアジャストする場合は、なるべくボールレベルよりも下に動いて合わせる。 もう少し互いにオーバーオフィシエイトを意識する。相手審判の位置取りや、チェックイン・チェックアウトのタイミングなどを感じて、プライマリーの外であっても判定しに行くことも大切。また、OOBのディレクションや、プレスディフェンスがあるときのバックコート8秒ヴァイオレーションを判定するときなど、一人だけではビジーな状態もあるので、その時は相手審判も自分の中で答えを持っており、ヘルプを求められたら二人で近寄って相談し、コールをするなど、クレーが協力して行っていることを見せることも大事。 もっと「声」を使って、会場に知らせることを意識して。例えば、「フロントコート、ショットクロック14秒から始めます」といように、細かいことを声に出すことが求められる。	
	自己の感想	今まで細かくは意識していなかったことを指摘して頂いた。例えばトレイルでの動きで、一度プレーに合わせて動いているけれど、すぐに元の位置に戻ってきている。それならば、動かずにステイするべきである。など、自分の無駄な動きについての指摘もあった。自分の動きをもっと洗練するべきポイントがあるのがわかり、有意義だった。このように、自分のジャッジングを映像で見ながら位置取りを確認しながら指導してもらえたのは良かった。B級昇格を目指すに当たって、心構えの部分からの講習内容だったので、改めてB級になるに当たっての自覚を求められた一日だった。	

第 41 回 大 阪 府 北 地 区 公 立 高 等 学 校 バ ス ケ ッ ト ボ ー ル 大 会
参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第41回 大阪府北地区公立高等学校バスケットボール大会		
●日程	令和1年11月4日 (月)		
●会場	大阪府立刀根山高等学校 体育館		
●講師	大阪府審判委員会インストラクター部 細見先生・近江先生・北村先生		
●スケジュール	令和1年11月4日 (月) 8:30 集合・開講式 9:00 実技講習開始 9:30 実技開始 18:00 解散		
●担当試合	令和1年11月4日 (月) 14:00 ~		
	対戦カード	茨木 VS 茨木工	
	主審	主審 奥辻	副審 朝久氏
	講師／主任	近江先生	
	講評	・メカニックは理解できており、1ゲームを走りきる体力もある。 ・ハンドチェックなど、逃したらいけないファールを吹きこぼしていた。 ・リードでボールを追いがちなので、目線を低くする。難しいようならば、1歩下がって見ることも必要である。 ・5秒のカウントが早かったので、自分が思っている以上にゆっくり数える。 ・レフェリーディフェンスを意識的におこなう。どちらかを重点的に見ていると、責任の所在が分かりにくくなってしまう。DEFの場合はパーチカルなのか、アンブレラなのかを判断する。 ・ジャンプシュートの目きりが早い。プロテクトシューターのところを見極める必要がある。 ・POCをしっかり見極めて、ファールを納得できるように、きちんと説明できるようにする。 ・ゲームフローにおいて、ナチュラルインターバルがぼけていた。 ・チャージングかブロッキングの判断はDEFがOFFに対して正対しているのかで判断する。 ・ノーファールとマージナルとイリーガルの基準の幅は狭くできるようにする。	
	自己の感想	ファールが前半でかなり込んだり、レフェリータイムが全体を通して長かったり、選手にかなりストレスを与える試合となったことが反省である。その原因として、クルーワークがうまくできず、ファールの基準の一致ができていなかったからだと考える。クルーチーフとして、タイムアウトやクォーター間にクルーとコミュニケーションを密に取り、ゲームをコントロールしていくことが重要であると改めて感じた。また、実技講習でEOG・EOQのプライマリーに関することを教えていただいたので、コートデザインを考慮したプライマリーをプレゲームカンファレンスで打ち合わせし、実行できたのは良かった。しかし、まだまだショットクロックやタイマーの管理に対する意識は低いので、今後の課題であると感じた。	

2019年度 CD級ステップアップ研修会

参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第41回大阪府北地区公立高等学校バスケットボール大会		
●日程	令和元年11月4日(月)		
●会場	大阪府立刀根山高等学校体育館		
●講師	細見様 北村様 近江様		
●スケジュール	令和元年11月4日(月)		
	8:30 開講式 9:30 実技開始 17:30 閉講式		
●担当試合	令和元年11月4日(月) 15:30 ~		
	対戦カード	大冠高等学校 VS 豊中高等学校	
	主審	主審 近藤 和暉	副審 田中 克俊
	講師／主任	北村様	
	講評	・アングル45度をリード・トレイルで意識すること。 ・トレイルのボールレベルを下げる。 ・ファーストコールの基準をクルーどうしでしっかり合わせること。 ・ショットクロックの管理の意識をしっかり持つこと。 ・プレゼンテーションのときにしっかり声を使う。 ・プリベンティブシグナルはディフェンスが離れていてもする。 ・エンドオブクォーター、エンドオブゲームを大切にする。 ・スリーの判定(特に3番エリア)はリードもきっちりみる。	
	自己の感想	アングル45度やトレイルのボールレベルを下げるといった立ち位置について具体的な課題が見つかったと思う。判定をより説得力のあるものにするためにも今後しっかりと意識していきたいと感じた。 また、ショットクロック関係については、クルーどうしのプレゲームカンファレンスできっちりと話し合い管理していくべきだと感じた。 講師の方やクルーどうしの会話で得たことを今後の実践につなげていきたいと思う。	

2019 年 度 CD 級 ス テ ッ プ ア ッ プ 講 習 会
参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第41回 大阪府北地区公立高等学校バスケットボール大会		
●日程	令和元年11月4日(月)		
●会場	大阪府立 刀根山高等学校		
●インストラクター	細見 様 北村 様 近江 様		
●スケジュール	令和元年11月4日(月)		
	8:30 集合・開講式 9:30 実技講習開始 17:30 閉講式・解散		
●担当試合	令和元年11月4日(月)		
	対戦カード	刀根山 VS 大冠	
	主審	主審 下村	副審 石山
	講師／主任	北村 仁 様	
	講評	・ヴァージブルカウントを行う場面と行わない時の確認。 ・POCを確認してからの正確なTOへの伝達。 ・ピックインパクトの判定。 ・トレイル時のレベルと立ち位置の工夫。	
	自己の感想	今回の講習会のテーマである「EOQ」と「EOG」を念頭に置き、一貫性を持った判定で 1ゲームを通しての的確なゲームコントロールが目標でしたが、POCの確認が不十分にも関わらずファールをコールしてしまったケースがありました。 今一度2POのメカニクスをマニュアルを読み理解を深めたいと思います。 ゲーム開始からのテンポセットを大切に、今後のレプリングに今回の講習会で学んだ事を活かしていきたいと思います。	

2019 年 度 C ・ D 級 ス テ ッ プ ア ッ プ 講 習 会

参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第41回 大阪府北地区公立高等学校バスケットボール大会		
●日程	令和1年11月4日 (月) ～ 令和1年11月4日 (月)		
●会場	大阪府立刀根山高等学校		
●講師	大阪府審判委員会 インストラクター部 近江 伸郎 様 / 細見 竜太 様 / 北村 仁 様		
●スケジュール	令和1年11月4日 (月)		
	8:30 集合・開会式 8:40 テーマ紹介(EOQ,EOGの重要性) 9:30 実技講習開始 17:30 解散		
	令和1年11月4日 (月) 12:30 ～ 14:00		
	対戦カード	豊中高校 VS 三島高校	
	主審	入江 拓郎 氏	副審 高澤 智己
	講師／主任	細見 竜太 氏	
●担当試合	講評	・テンポセッティングが出来ていた。またテーマであるEOQ,EOGの分担も出来ていた ので良かった。 ・goodコールもあったが、コンタクトの瞬間を長く捉えること。 ・パートナーとの位置関係を常に把握しておくこと。 ・終始メリハリをつけることが大切である。 トランジションをする際のスピードに変化を見せること TOレポートやコールした後に少しステイするなど、全てが同じにならないようにする ・14秒などで再開するときは、声を張って会場中にわかるように工夫すること。	
	自己の感想	自分の課題を少しでも、克服しようと挑んだ研修でしたが、それよりもパートナーと協力することの大切さを強く学ぶことができた内容でした。自身の課題である、クロスコールが無かったことは大きいと思いましたが、セカンダリでコールするべきシーンが何度かあったので映像を振り返りながら確認したいと思います。また、試合後のカンファレンスでは、審査会に向けて何を修正するべきかをわかりやすくアドバイスしていただき今後、マニュアル理解やトレーニングを積み重ねることがもっと必要だと感じることが出来ました。 結びに、今回このような研修会に参加させていただきありがとうございました。今後の活動に、より一層磨きをかけてまいります。	

2019 年 度 CD 級 ス テ ッ プ ア ッ プ 講 習 会
(第41回大阪府北地区公立高等学校バスケットボール大会)

参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第41回 大阪府北地区公立高等学校バスケットボール大会		
●日程	令和1年11月4日 (月)		
●会場	大阪府立刀根山高等学校 体育館		
●講師	北村 仁 様		
●スケジュール	令和1年11月4日 (月)		
	8:30 開講式 8:35 講師講話 9:30 実技開始 17:30 実践終了 17:35 閉会式 18:00 終了		
●担当試合	令和1年11月4日 (月) 15:30 ~		
	対戦カード	大冠 高校 VS 豊中 高校	
	主審	主審 近藤 和暉 氏	副審 田中 克俊
	講師／主任	北村 仁 様	
	講評	・リードのアングル(コートの中に対して体を45°に向ける) ・マージナルプレーに対する判定 ・試合開始5分でイリーガルの判定を確立させる ・3番エリアの3Pの判定がリードとトレイルと割れた ・ショットクロック終了の笛の合図のタイミング ・ヘルドボール、キックボール時のショットクロックの処置 ・4Q残り2分のタイマー処置が確実にされているかのチェック、プリベンティブシグナル	
	自己の感想	・ハーフタイムの時に講師の方に指導していただいたこと(リードのアングル)を頭に入れて後半をスタートすると、そのことばかり気になり今までできていたことが疎かになってしまうことがある。 ・バックパスの判定を厳密かつ瞬時に行う必要がある。 ・キックボールの判定であったことを確認できずにショットクロックを継続の処置をしたのが試合終了後のカンファレンス上がった。1秒の誤差だったがこの1秒が大きな1秒になると考えるとショットクロックやゲームクロックの管理は慎重かつ正確に行わなければならない。試合中にクルーチーフのプレゼンテーションの確認やアイコンタクトを取り、次に自分がどのような行動をしなければならないのかを速やかに判断し、処置をしなければならないと感じた。 ・講師の方の講話より、B級の責任の重さや求められる能力の高さを痛感した。	

2019年度 CD級 ステップアップ講習会
参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第41回 大阪府北地区公立高等学校バスケットボール選手権大会		
●日程	令和元年 11月 4日 (祝)		
●会場	大阪府立刀根山高等学校		
●講師	大阪府審判委員会インストラクター部		
●スケジュール	令和元年 11月 4日 (祝)		
	8:30 集合・開講式 9:30 実技講習開始 17:30 解散		
●担当試合	令和元年 11月 4日 (祝) 9:30 ~		
	対戦カード	三島 VS 茨木	
	主審	主審 池田 祐貴 氏	副審 藤井
	講師／主任	近江様、首藤様、細見様	
	講評	○メカニクスについて ・トレイルでのクロスステップを下がりながら行っている。リバウンド争いに対して遠くなるため、横移動すると良い。ただしパスに巻き込まれないよう予測する。 ・リードでファールを捉える際に、クローズダウンポジションでの判定が多くリバウンド争いなど開いて確認すると見やすいケースもあるので工夫が必要。 ○判定について ・リバウンド争いでのイリーガルな手を見逃しているので判定する。 ・プレイへの影響(RSBQ)を見極めて、判定が軽くないようにする。 ・ボールに対してイーブンな接触に対してはノーコールとする。 ・抜けてないオフェンスに対するブロッキングコールがあったので吹くべきでない。 ・ディフェンスがオーバーアクションと取れる倒れ方をしたケースでは、フェイクを示すべき。 ○その他 タイマーがトレイルの背後1ヶ所となるケースのEOQ、EOGでは、音での判定も必要。合せてリードの協力についてもプレカンで申合せておく。	
	自己の感想	○講師より、特にEOQ、EOGに関する映像を交えての講和があり、最後の0.1秒まで判定をし続ける姿勢、クルーの協力など通常時間帯では起きない事象への備えの重要性をあらためて確認できた(キックアウトのケースは具体的映像で見ると大変分かり易かった)。また設備面では、タイマーの位置、音の大きさや時間との連動状態など、事前に細かいチェックを怠らないようにアドバイスを頂いた。なお、担当ゲームでEOQ判定が求められる事象が早速出現したが、強く意識した判定が出来ず準備不足を痛感した。 ○オンザコートではスピード感あるゲームを両校展開するなかで、特にファールの判定で流れを切らないようアングル、プライマリを意識したが、結果的に影響のないファール判定をポスカンで指摘されており、マージナル、ノーコールの判定をさらに意識して今後取組んでいきたい。	